



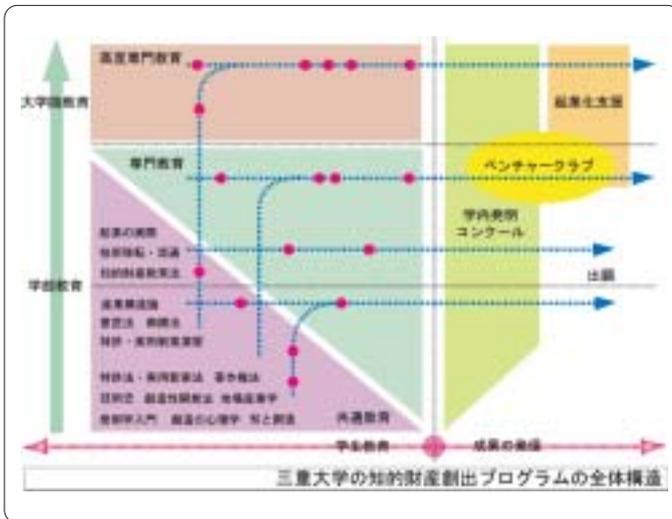
# Flash News

〈フラッシュニュース〉

目次

- 平成16年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」採択
- 平成16年度「海外先進教育研究実践支援プログラム」採択
- 「みえメディカルバレーフォーラム」
- 阿児町と人文学部間で相互友好協力協定に調印
- 「都市エリア産学官連携促進事業」での産学官共同研究始まる
- 三重県立松阪高等学校と三重大学との高大連携授業について
- 第1回農林水産省ポスト協調プロFS (Feasibility Study)
- 「高校生のための化学講座」を開催
- セクシュアル・ハラスメント講演会開催
- 四日市じばさん三重にて「新しいものづくりセミナー」を開催
- 液晶についての日伊ワークショップ

## 平成16年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」採択



文部科学省が公募していた標記プログラムに、本学から応募の「**全学的な知的財産創出プログラムの展開**」（取組代表：松岡 守教授・教育学部）が採択されました。これは日本が追い求めている知的財産立国の実現に資するべく、共通教育を中心にした全学的な取り組みとして知的財産教育を実施するというものです。一部の学生ではなく、全学生の知的財産マインドの高揚を図る、というところがこれまでにない点です。共通教育でこのプログラムに従って今後開講する講義は、すでに開講している「**発明学入門**」に加えて、「**知と創造**」

、「**技術史**」、「**地場産業学**」、「**起業の実際**」、「**特許法・実用新案法**」など多岐にわたります。発想することのよろこびを味わい、創造に関わるアカデミックな議論から実務的な知識までの講義を提供していきます。また、学生の創意工夫を振興するために、学内発明コンクールなども計画しています。平成16年度から準備にかかり、4年計画で充実した教育を完成させていきます。



左から松岡教授、豊田学長、山田理事

## 平成16年度「海外先進教育研究実践支援プログラム」採択

文部科学省が公募していた標記プログラムに、本学から応募の「**CSCLと連携したPBL教育法の研究開発**」が採択されました。これは、医学部で成功しているPBLを全学的に波及させるための新しい教育法の調査研究のために、本学教員をPBLとe-Learningを先導的に実施している欧米の大学に派遣するというものです。国立大学での平均採択率が68.3%に対して、本学は7人中6人（長期派遣：各学部1名、短期派遣：生物資源学部1名）が採択されるという高い評価を得ることができました。

## 「みえメディカルバレーフォーラム」

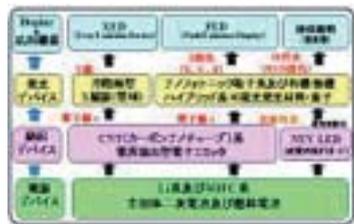
9月6日にHグリーンパーク津で「産学官連携による地域再生を考える」を目的とする、「みえメディカルバレーフォーラム2004」が開催されました。基調講演として、棚橋秀行・東大阪宇宙開発協同組合専務理事が「中小企業の宇宙へのチャレンジと産学官連携」、清水勇・理工学振興会専務理事が「独立行政法人化と新たな産学官連携の方向」と題して講演されました。続いてのパネルディスカッションでは、三重大学の現状を本学豊田学長が発表しました。会場では、県内外の企業、自治体、大学関係者が、熱心に聞き入っていました。

## 阿児町と人文学部間で相互友好協力協定に調印

人文学部（学部長：井口靖 教授）では、本年度は大学院科目「三重の文化と社会」のフィールドを阿児町において授業を行っています。今後も引き続き、文化、教育、学術等の分野で協力を行うため、8月25日阿児町役場において、阿児町との間で相互友好協力協定に調印しました。阿児町は10月に志摩市になりましたが、その精神が新しい市に受け継がれ、さらに友好関係が促進されることが期待されます。



## 「都市エリア産学官連携促進事業」での産学官共同研究始まる



「次世代ディスプレイ用新機能材料とその応用機器の創製」をテーマとする「都市エリア産学官連携促進事業（三重・伊勢湾岸エリア）」が9月1日から始まりました。この事業は3年間のプロジェクトで研究統括（平松和政教授・工学部）と科学技術コーディネータ（伊坪明・三重県産業支援センター）が中心となり産学官共同研究事業を推進します。予算は総額約2億6000万円です。この事業で、ディスプレイ関連分野での産学官の連携を図ることにより、関連産業の技術革新や新産業の創出が促進され、地域経済の発展に繋がることを期待されます。

## 三重県立松阪高等学校と三重大学との高大連携授業について

文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受けた松阪高校と本学が連携で、科学に対して強い興味や関心をもつ生徒を育成するために、カリキュラム開発を行うことになりました。同校生徒を対象に7月21日～22日に生物資源学部附属の紀伊・黒潮生命地域フィールドサイエンスセンターで「食品加工を通じた化学反応の体験」と「自分のDNAを取り出そう（VNTR領域のPCRによる増幅）」、8月2日～3日に医学部で「生命の意味」「生命の価値」、8月23日～24日には工学部で環境・エネルギーなどに関するわかりやすい講義や実験実習を実施しました。

## 第1回農林水産省ポスト協調プロFS（Feasibility Study）

農林水産省唯一のITプロジェクトが今年度で終了するのを受け、最新の農業IT技術についての第1回目のフィジビリティ・スタディ（委員長：亀岡孝治副学長）が7月30日にメディアホールで開催されました。会議には生物資源学部を含む産官学から20名（テレビ会議での参加を含む）の先端研究者が参加し、慶応大学福井弘道教授の講演「農業情報利用における3D GeoBrowserの可能性」を中心に活発な議論が行われました。

## 「高校生のための化学講座」を開催

8月20日、工学部分子素材工学科（世話人：吉岡泰規教授）では、三重県高等学校理科教育研究会と共同で、高校生を対象に、体験実験を通じ化学のおもしろさと重要性の理解を深めるために、「高校生のための化学講座」を開催しました。三重県下、21校131名の参加があり、11班に分かれ午前と午後合わせて2テーマの実験を体験しました。最後に、参加者1人1人に修了証書を手渡しました。体験実験、大学教員との交流、先輩学生との交流、研究室見学など、化学への興味を引き起こす機会として高校生には充実した1日となりました。この講座を通じて多くの高校生が、将来、ものづくりに志すことが期待されます。

## セクシュアル・ハラスメント講演会開催

9月8日人文学部で教職員対象のセクシュアル・ハラスメント講演会がフェミニスト・カウンセラー（白石恵美子・名古屋大学セクハラ相談員）を招き、開催されました。「セクハラは、主として、多数派（男性）が少数派（女性）に対し、自分たちの価値観を「当然」として押しつけるところから生じ、それと異なる価値観を持つ少数派は自分を責める、ここに権限上の上下関係が重なると、被害者はNOと言えなくなる、NOと言わせない組織風土を改革するべきである」とのお話に、事務職員も含めて60名以上の参加がありました。なお10月20日には学生対象の研修も予定しています（学部外参加も可）。

## 四日市じばさん三重にて「新しいものづくりセミナー」を開催

工学部（学部長：加藤征三教授）は、（財）三重北勢地域地場産業振興センターの主催で、四日市じばさん三重にて、「新しいものづくりセミナー」を8月～9月に2回開催しました。これは三重大学と三重県北勢地区での産学連携を推進するために行われたものです。第1回（8月2日）は「機械加工・製造技術」及び「防災」をテーマとして、第2回（9月9日）は「ナノカーボンの現状と事業展望」について工学部の教員が講演を行いました。



## 液晶についての日伊ワークショップ

2002年のシシリー島エリーチェでの第1回につづき、第2回が9月5日～8日にアストホールで日本学術振興会（組織現地委員：山下護教授・工学部）の主催、日本液晶学会、伊液晶学会、三重県の協賛のもと開催されました。本学物理工学科からは招待講演1件、ポスター発表3件がありました。科学は普遍的であるもののお国柄があり、さすが「ガリレイの国」、実証科学の深さを研究交流を通して再認することができました。

## 投稿のお願い

各種事項（大学教育・研究、地域連携、国際交流、学内事業等）に関するフレッシュなニュース提供をお待ちしています。

亀岡孝治 (vpre-info@mie-u.ac.jp) または 井上真理子 (mariko@ab@mie-u.ac.jp) まで。場合によっては、取材に向きます。

《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページで (<http://www.mie-u.ac.jp>) ご覧いただけます。》 編集責任者 / 理事・副学長 渡邊悌爾